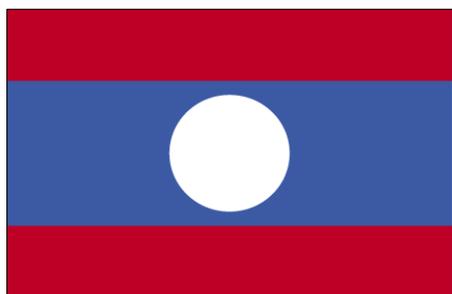


国名(日本語)	<b>ラオス人民民主共和国</b>
国名(英語)	<b>Lao People's Democratic Republic</b>



国名の由来	国民の過半数を占めるラオ族に由来し、ラオスの「ス」は複数形を表し「族」の意味となる。ラオ族はタイ系の種族で、中国南部の雲南地方から南下定住した民族。「ラオ」は元来タイ語で「人間」を意味した。1953年「ラオス王国」としてフランスから独立。数度の内戦を経て、1975年ラオス人民民主共和国が成立した。
国旗の由来	白い円は満月を表し、共産党政府の下の統一性を象徴している。赤は革命で流された血と犠牲を、青はメコン川を表し、国の繁栄を象徴している。1952年以来、ラオス愛国戦線(パテト・ラオ)が使用していたもので、1975年の独立時に採用された。
1 面積	24万平方キロメートル
2 人口	約649万人(2015年 ラオス統計局)
3 首都	ビエンチャン
4 言語	ラオス語
5 宗教	仏教
6 豆知識	ラオスの古都ルアンパバーンは、その歴史ある町並み全体が1995年世界文化遺産として登録された。旅行先としてヨーロッパでは人気があり、イギリスの旅行雑誌『Wanderlust』の読者投票「ワールドトラベルアワード」では3年連続1位に選ばれたこともある。

※6 豆知識は、『エピソードで読む世界の国243』エピソードで読む世界の国編集委員会 山川出版社 2016.5 (東京都立中央図書館 請求記号:290.0/5029/2016) 参照。